

景気景況調査報告

(第12回)

平成30年	10～12月期	実績
平成31年	1～3月期	見通し

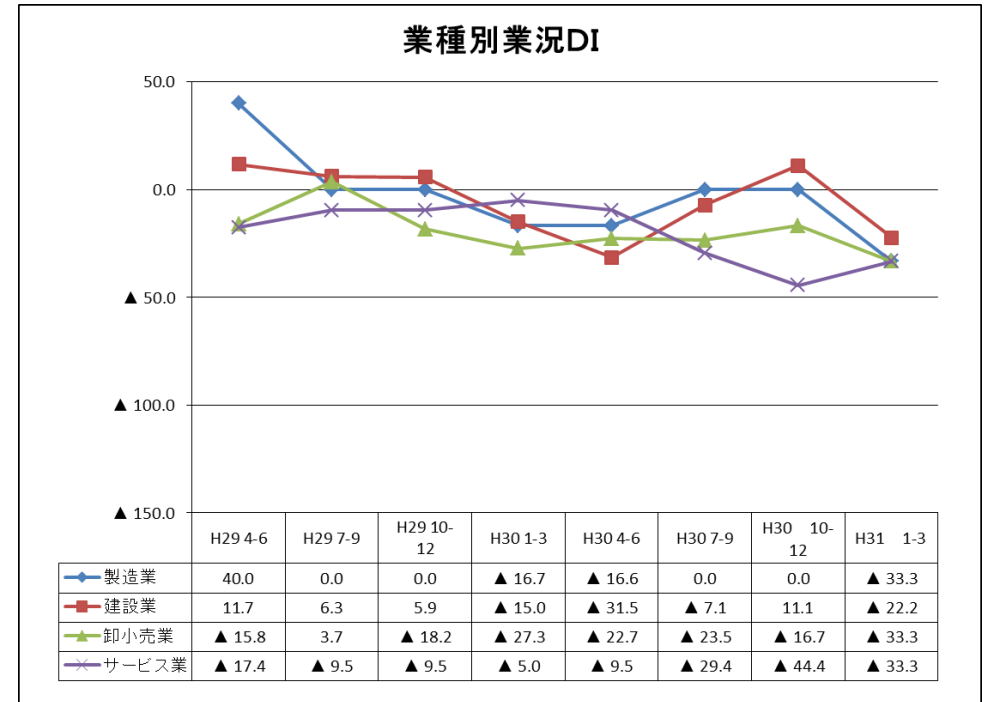
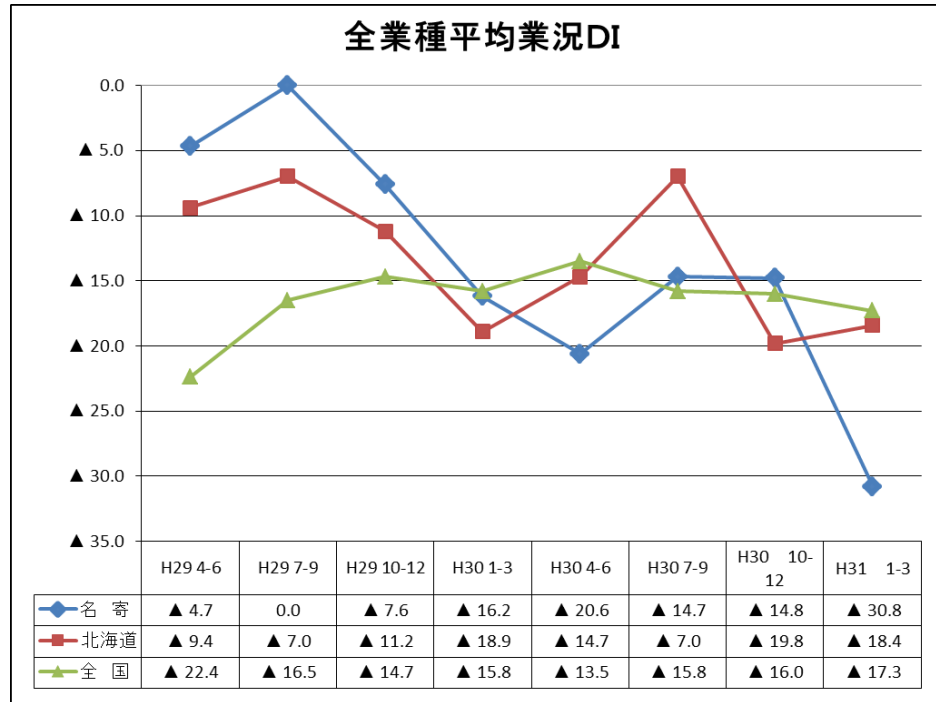
平成31年2月

名寄商工会議所

I 調査要領

- ①調査対象期間 平成30年10～12月期の実績及び平成31年1～3月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、従業員、業況、資金繰りの6項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（FAXで協力願い） 53社

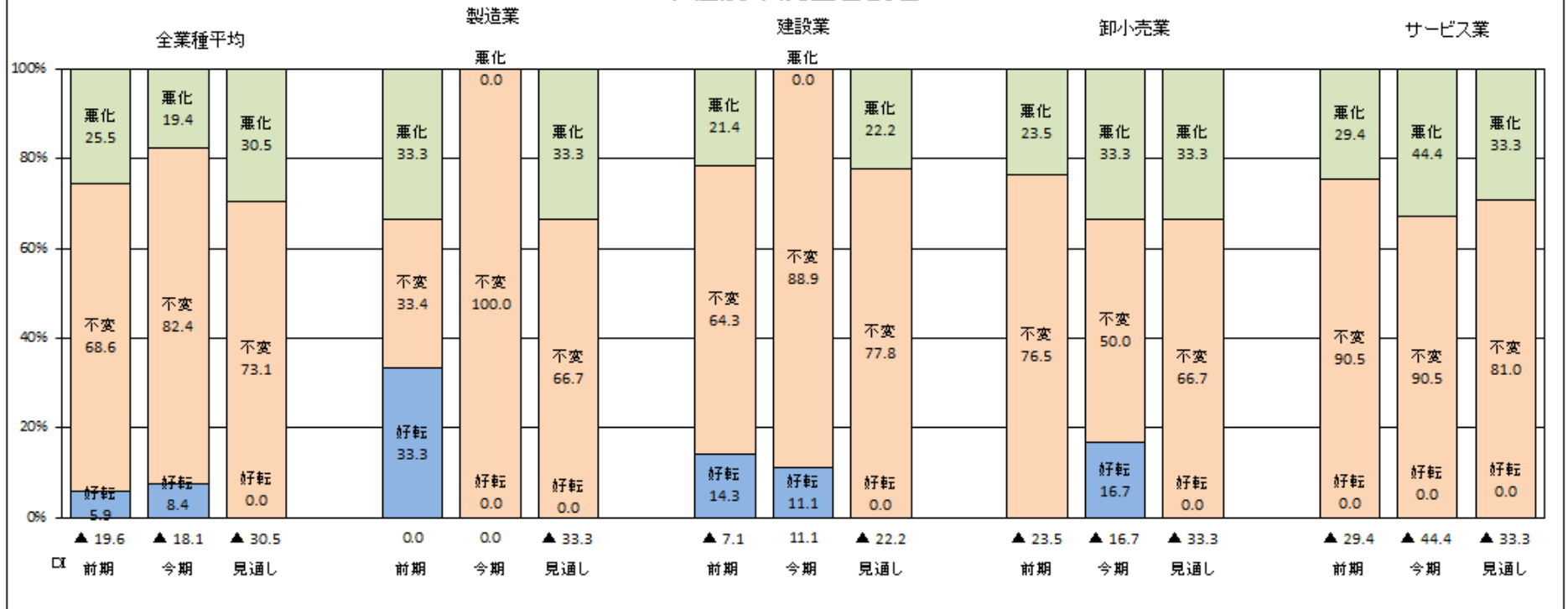
II 調査結果



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- ・今期、全業種平均で▲14.8ポイントと前回調査と比べ横ばいとなっている。卸小売業が前回▲23.5→今回▲16.7と6.8ポイントマイナス幅を縮小した。
- ・北海道（道商連調査）の景気と比較すると、今期▲5ポイント良いが、見通しでは▲12.4ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気と比較しても、今期1.2ポイント良いが、見通しでは▲13.5ポイントマイナス幅が拡大する見込みとなっている。
- ・名寄市の見通しが今期よりマイナス幅が拡大する要因としては、除雪量の減少、公共事業の縮小、原材料の上昇と売上増加が見込めないとの回答が多数あり。
- ・業種別では、サービス業以外は悪化の見通しとなっており、サービス業は▲11.1ポイント縮小する見通し。

業種別業況回答割合

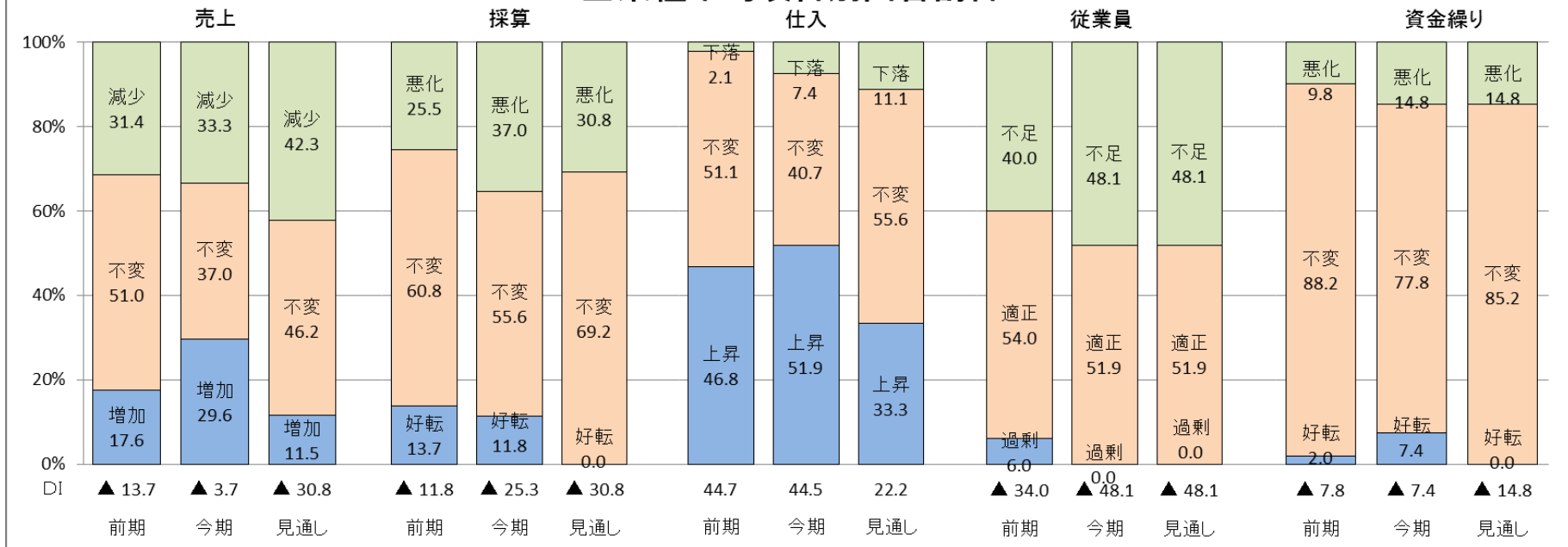


※D I : 「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 前期「不変」より今期は100.0%となり「悪化」「好転」回答はなくなっている。見通しでは「悪化」が33.3%増加し、好転が見込めない状況となっている。
- 建設業～ 今期は前期と比べ「悪化」回答がなくなったが、見通しでは22.2%増加。公共工事や民間工事の減少、除雪量の減少、利益の低下や職人不足により業況が悪化しているとの回答。
- 卸小売業～ 前期と比べ今期「悪化」33.3%と前期より9.8%やや増加している。見通しでも「悪化」は横ばい。
- サービス業～ 今期は前期と比べ「悪化」が15%増加。影響としては胆振地震の影響や事業量の減少、原材料の上昇、タクシー利用者減少などの回答。
見通しでは「悪化」11.1%減少しているものの「好転」回答がないため継続して厳しい状況下である。

全業種平均では、今期は前期より「悪化」9.1%減少しているものの、見通しでは「悪化」11.1%増加。好転回答もないため景気回復の兆しは不透明である。

全業種平均項目別回答割合



売上 DI

[好転の要因]

[悪化の要因]

今期▲3.7ポイントと前期より▲10ポイントマイナス幅を縮小。見通しでは▲27.1ポイントマイナス幅が拡大している。

- ・住宅改修等事業補助制度の希望者増加
- ・公共工事の減少、発注減少、人手不足
- ・高齢化
- ・インターネット化
- ・技術者不足
- ・除雪量の減少

採算 DI

[好転の要因]

[悪化の要因]

今期▲25.3ポイントと前期より▲13.5ポイントマイナス幅が拡大し、見通しでは▲5.5ポイント拡大する見込。

- ・企業努力により経費削減
- ・工事利益率の増加
- ・客単価上昇
- ・外注経費の削減
- ・除排雪作業が減少
- ・受注減、売上減
- ・人件費高騰
- ・燃料価格上昇

仕入 DI

[上昇の要因]

今期44.5ポイントと前期より0.2ポイント増加。見通しでは22.3ポイントと減少傾向となっている。

- ・中国のまとめ買い(木材)
- ・人件費上昇による値上
- ・資材や原材料の高騰
- ・農作物不作

従業員 DI

[不足の要因]

今期▲48.1ポイントと前期よりも▲14.1ポイントマイナス幅が拡大。見通しでも改善傾向がみられず従業員不足が懸念される。特に建設業による不足の声が多いが、広範な業種において人手不足は深刻な状況となっている。

- ・仕事量に対して人数が少ない
- ・早期離職者の増加
- ・高齢化のため退職者増加
- ・技術者や経験者がいない

資金繰り DI

今期▲7.4ポイントと前期から0.4ポイント減少。見通しでは▲14.8ポイントマイナス幅が拡大傾向のため資金繰りが厳しい状況。